

技術職員研修
技術（研究）発表報告集 2 1



京都大学総合技術部
2015. 5

ごあいさつ

総合技術部長 伊藤 紳三郎

京都大学は、世界的にも卓越した研究拠点として新たな知を創造するとともに、質の高い教育により次世代を担う人材を育て、地球社会の調和ある発展に貢献することを使命としています。このような大学の教育研究活動は、学部・研究科、研究所・センターや全学機構に配置された教員、技術職員、事務職員の緊密な連携と協働により支えられていることは言うまでもありません。中でも技術職員は、ますます高度化・専門化する技術支援、先端機器オペレーション、学生教育や研究支援、情報システム、安全衛生の維持・管理、環境保全や労働災害防止など、多岐にわたる業務を行っています。正に、大学における教育研究活動の基盤を技術職員が担っていると言えます。

もちろんその業務は教育研究現場に密着した活動でなければなりません。常に進歩する社会に適応するためには、個々の技術職員の視野を広め、資質・技能を高めることが必要です。さらに全学的な見地から多様な技術支援のニーズに応える必要があります。このような観点から、平成18年度から総合技術部が全学組織として新たな体制で活動を開始しました。とりわけ平成16年の国立大学法人化にともない、それまで国家公務員として免除されていた様々な特例が適用されなくなり、一法人として各種法令の遵守が求められるようになり、技術職員にお願いしなければならない業務の幅も格段に広がりました。また日進月歩の情報技術、セキュリティ、環境問題など、部局を超えて対処しなければならない課題が山積しています。このように、京都大学の教育研究活動の基盤を支え、さらなる充実・発展を目指すためには、多様な分野における技術的専門家を擁する総合技術部が、全学的な組織として活動することが求められています。

このような期待に応えるべく、総合技術部では6つの専門技術群を設け、全ての技術職員がいずれかの技術群に属しながら技術発表や研修を行っています。この紹介冊子は、平成25年度に実施した技術職員研修、専門研修、個人研修等の内容をまとめ、総合技術部の業務の現状や、さまざまな取り組み、課題を紹介しております。この報告書を通してぜひその活動の意義をご理解いただき、今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目次

技術職員研修(第38回)	1
研修日程表	2
技術職員講義報告書	3
『京都大学における学習支援システム(Sakai GLE)の導入と運用』	4
外村孝一郎(情報部情報基盤課)	
『Arduinoを使った電子工作』	8
吉田あゆみ(人間・環境学研究科)	
『チューナブルフィルター(太陽観測用狭帯域光学フィルター)の開発』	21
木村剛一(理学研究科附属飛騨天文台)	
技術研修(第38回)実施報告書	22
阿部邦美(総合技術部研修担当:理学研究科)	
技術職員研修(専門研修)	32
第1専門技術群(工作・運転系)	33
第2専門技術群(システム・計測系)	37
第3専門技術群(物質・材料系)	42
第4専門技術群(生物・生態系)	59
第5専門技術群(核・放射線系)	65
第6専門技術群(情報系)	118
技術職員研修(個人研修等)	123
京都大学総合技術部個人研修実施要領	124
前期個人研修	125
後期個人研修	148
個人研修(技術研究会)	155

技術職員研修 (第 38 回)

技術職員講義報告書

技術職員研修

(専門研修)

技術職員研修 (個人研修等)